



＜連載⑳＞

## 瀬戸内海のデイクルーズ船 サウンズ・オブ・セト



大阪府立大学船舶工学科助教授

池田良穂

**広島県の** 東の外れに近い沼隈郡に常石造船という中手の造船所がある。この会社はなかなかユニークな会社で、本業の造船業だけでなく、海運業、観光業、食材業、スーパーマーケット、ゴルフ場、牧場、さらに芸術品を作成する版画工房など、かなり幅広い事業展開を図っている。造船会社が軒並みに不況の中で喘いでいたときにも、この会社をその強烈なリーダーシップで索引する神原社長は悠然とかまえていたように思う。

この会社グループの経営するリゾートホテル「進藤」は筆者のお気に入りのホテルで、広い部屋の窓から眼下に広がる景色は、これこそ瀬戸内海と思わせるものである。ここから見える夕日が見たくて、年に数回はここに泊まる。

今年の4月に常石造船は、第3セクター方式で、このホテルの下の海岸線を開発し、浮体式の水族館、マリナー、レストラン、フィッシュ・マーケットなどを中心とした観光地「境ヶ池マリナーパーク」として整備した。また、ここから瀬戸大橋の与島までのデイ・クルーズ客船の運航を開始した。船は元国鉄の宇高連絡船「土佐丸」で、大改造の結果、極めてモダンな客船に生まれ変わった。もちろん、この改造は常石造船で行われた。宿泊施設は持たず、レストランとラウンジを

中心とする船であるが、最近のデイ・クルーズ客船の場合と同様に、グルメ志向のレストラン部門に力を入れており、本格的なフランス料理から手軽なバイキング料理まで、色々な料理を瀬戸内海の美しい景色をバックに楽しめるようになっている。

**8月に、** このリゾートホテル「進藤」に泊まり、サウンズ・オブ・セトに乗船する旅を企画したところ、サウンズ・オブ・セトにだけ乗船する日帰りの人も含めて38名の参加者となった。参加者は大阪を中心としているが、東京、九州からわざわざ乗りに来た人もいた。8月5日の午後、ホテルに続々と各地の船ファンが集まってくる。東京からは、野間、茂川、山田氏という船の世界では著名な各氏も参加され、芝生の上でバーベキューを楽しみながら、しばし船談議に花が咲いた。ちょうど、下のマリンパークで花火大会も催され、これも我々のパーティに花をそえてくれた。

**翌日、** 朝10時に出港するサウンズ・オブ・セトに乗り込んだ。デッキは木甲板である。客船のデッキは鋼板むきだしのままでは、いかにも味

気無い。木の温もりが客船にはよく似合う。このサウンズ・オブ・セトの木甲板はねじの頭が露出しているなど若干見栄えに問題はあるものの、この種の船においては立派なものと言えよう。このデッキから、心地よい風にあたりながら、瀬戸内海の航海を楽しむのは最高である。船内のエンターテイメントとしては、ウルグアイから招いたタンゴのバンドの演奏と歌が楽しめる。2層吹き抜けの多目的ホールで行われるアルゼンチン・タンゴの本格的な演奏も、この5時間ほどのクルー

ズを飽きさせない大きな要素となっている。

船内をあちこち見学してみて、最近の客船ではしばしば問題となる振動がこの船にもでているのに気がついた。場所によっては、耳に非常に不快な振動数のものがある、この点は早急に振動対策を講じるべきであろう。

11時から、レストラン・シンシアでの昼食となった。このレストランは40名弱定員のなかなかこじんまりとしてかつ高級感のあるものとなっている。だされたフランス料理のフルコースは結構



サウンズ・オブ・セト



レストラン

おいしかった。このレストランのほかにバイキング料理を出すレストランもあり、気楽な食事が楽しめる。

**1時すぎに** 与島に到着。ここで、1時間ほど時間があつた。瀬戸大橋の観光拠点として、またウォーターフロント開発の1つのモデルとしてかなり話題を集めており、かねてから一度見てみたいと思っていた。しかし、率直な印象は、単なるお土産屋とレストランの複合体であり、日本各地の観光地のそれとあまり変わりはないように思われた。とはいっても現在大量の集客に成功しているのは事実であり、我々が訪れた時も人でごったがえしていた。与島からの観光船、遊覧ヘリコプターにも人が列を作って並んでいるという盛況ぶりである。わずか、1時間程度の訪問ではこの成功の要因についての十分な答えは得られなかつ

た。今後どのように発展するかに期待をかけた。

帰りの航海は、時間を持って余すほどのんびりしたものであつた。海を眺め、タンゴを聞き、船仲間と話しをしているうちに、やがて境ヶ浜のマリンパークが見えてきた。

**東京湾の** デイクルーズ船「シンフォニー」などに見られるように、大人口を擁する大都市圏でのデイクルーズはなかなか活況を呈している。

しかし、サウンズ・オブ・セトのようなバックに大きな都市がない場合には、どういふ魅力で観光客を引っ張ってきて、船に乗せるかが大きな問題となる。常石グループとしては、同社のマリンパークやみろくの里などの観光資源ともからめた戦略の上に同船もあるのであろう。今後の発展が期待される。

